

オオツノトンボを西宮市で採集

田 中 稔

オオツノトンボ *Protidricerus japonicus* MacLachlan の採集例は森田真澄氏の「オオツノトンボ神崎町で採集」(きべりはむし 第18巻 第2号)があるが、筆者も西宮市で採集しているので報告する。

lex., 兵庫県西宮市神原, 7・Ⅷ・1987, 田中 稔採集.

駐車場の水銀燈に飛来していたものを拾った。付近に本種が生息するような環境はないので、トラックの荷台にでもどこからか運ばれてきたものと思われる。

「原色昆虫大図鑑 Ⅲ, 昭和40年」には「本州・四国および九州の山地に生息し, 6月下旬から8月下旬まで獲られるが個体数は少ない。」とある。

本種については塚口茂彦氏に御教示をいただいた。ここにお礼申しあげる。

笹部で得た3種のウスバカゲロウ

森 和 夫

アリジコクは、変わった体形とスリバチを作ることで、子供の頃から興味を引く虫であった。その成虫であるウスバカゲロウは夜行性であるため、昼間は雑木林の枝などにひっそりと止まっている。

最近「砂丘のアリジコク」(松良俊明著, 思索社刊)を読んだところ, ウスバカゲロウの生活史についても詳しく調べられており, 種類もいろいろといることを知った。

これまで筆者が目撃したものは普通種のウスバカゲロウばかりであったが, 自宅近くの笹部(川西市)へ時々足を運んでいる内に, 後記データのようにコマダラウスバカゲロウやカスリウスバカゲロウも採集することができた。谷間の狭い地域で3種も生息していることは珍しいと思われるので報告する。

①ウスバカゲロウ *Hagenomyia micans* MacLachlan

○笹部駅北側の雑木林内

8-VIII-1965. 1ex.

各地で見られる普通種である。幼虫はスリバチ状の巣穴を作るため見付け易い。成虫は、昼間に雑木林内を歩いていると弱々しく飛び出してくることがある。

②コマダラウスバカゲロウ

Dendroleon jezoensis Okamoto

○笹部駅北東の林道

○27-VII-1990. 2exs.

夜間9時頃、台場クヌギを見回っている時、ゆるやかに飛んでいる個体が、ヘッドランプの明りに浮かび上がった。

本種の幼虫は、地衣類の生えた岸壁等に生息しているそうである。インセクトリウム誌 Vol. 28, No. 3 (1991) の表紙には幼虫の見事なカラー写真が掲載されている。当地では、初谷川にそって崖が続いているため、ここで発生しているものと考えられる。

③カスリウスバカゲロウ

Distoleon nigricans Okamoto

○笹部駅内の灯火

○27-VI-1991. 1ex., 28-VI-1991. 1ex.

2頭とも、蛍光灯下の壁に止まっていた。三角紙に入れたままで、毎日夜間に蜂蜜を薄めて飲ませたところ、数日間は生存していた。この間に、三角紙の中に灰緑色の卵を各々10個ずつほど産んだが、いずれも孵化しなかった。

翅にカスリ紋様があり、きれいなウスバカゲロウである。本種の幼虫は、スリバチ状の巣穴を作らず、生活史もよく分っていないようである。